

四王寺山史跡マップ

文化遺産から
はじまる
まちづくり



大宰府政庁跡から望む四王寺山（大野城跡）

文化遺産調査ボランティア 四王寺山勉強会
公益財団法人 古都大宰府保存協会

平成 29 年 3 月発行

しおうじやま 四王寺山

太宰府市、大野城市、宇美町にまたがる四王寺山には、古代から現在に至るまでの歴史が数多く残されており、豊かな自然、素晴らしい風景に出会える山として多くの人々に親しまれています。

四王寺山の麓に位置する太宰府市では、平成 20 年度より市内に残る数多くの文化遺産を市民自らの手で調査・記録し、未来へと伝える文化遺産事業を行ってきました。

本マップは、調査ボランティアの方々による四王寺山に関する調査成果をまとめたものです。四王寺山を訪ねる手引きとしてお役立て頂ければ幸いです。

本マップに関するお問い合わせ先

公益財団法人 古都大宰府保存協会

〒818-0101 福岡県太宰府市観世音寺四丁目 6 番 1 号

TEL (092)922-7811 FAX (092)922-9524

ホームページ <http://www.kotodazaifu.net>

（史跡解説員による市内史跡の御案内も受け付けております）

一四王寺山の歴史一

四王寺山は古くは大野山とも大城山ともいわれていました。天智天皇 4(665) 年に大野城が築かれたことで、日本の防衛という重要な役割を担いました。

それから 110 年後、奈良時代の宝亀 5(774) 年に四王寺（四王院）が創建されます。これは、当時外交関係が緊張していた新羅の日本への呪詛の動きに対し、大野山の清浄な地を選んで四天王像を安置し、呪詛を祓い国を護る祈禱をすることが目的でした。これ以降、四王寺山と呼ばれるようになったと考えられます。

戦国時代になると岩屋城が築かれ幾多の合戦の場となり、天正 14(1586) 年の合戦では島津氏の攻撃により、高橋紹運ら将兵が玉砕しました。城跡には高橋紹運の忠義を讃える石碑が建立されており、現在でも多くの人に偲ばれています。

近年は里山として親しまれた四王寺山。山中の四王寺村の人々は、麓の太宰府まで通学や商売のために約 4 km の山道「太宰府町道」を通っていました。現在は荒廃していますが、当時の思い出や風景を後世に伝えるべく、ボランティア「四王寺山勉強会」の手で整備がすすめられています。

古来より連綿と続く歴史ある四王寺山は、多くの人々に守られ愛されながら太宰府を静かに見守っています。



一祈りの風景一

四王寺山の山中には石仏が三十三ヵ所に祀られています。由来は諸説ありますが石仏に残された銘文から、これら石仏が主に江戸時代後期に建立されたことがわかります。

当時、福岡藩にとっては天下泰平の時代で、櫛田神社の祇園祭山笠も城主、町民一体となって盛り立てていました。ところが、寛政 10(1798) 年、福岡城下町の大火災で民家千軒が焼失。さらに、翌年には天然痘の悪疫流行、干魃や豪雨などの天変地異が続きました。

このため、大野山（四王寺山）一円に石仏巡りの札所をつくり、観音様の御利益にすがって現世の不幸から逃れようとの願いから、博多浜口町の人々が発起し博多・太宰府・宇美などの人々が協力して、西国三十三ヵ所にならい四王寺山全域にわたる霊場建立をなしとげたものといわれています。

山の西側にある毘沙門堂では毎年正月三日に毘沙門天詣りが行われ、三十三石仏とともに人々の信仰を集め、また、四王寺山を訪れる人々を静かに見守っています。

■参考『四王寺山三十三石仏現況調査報告書』

発行・太宰府市民遺産を守り育てる実行委員会 編集・四王寺山勉強会



一古代山城 大野城跡一

◆大野城とは

大野城は天智天皇 4(665) 年に築城された朝鮮式山城のひとつで、「大野城跡」として国の特別史跡に指定されています。

7 世紀の激動する東アジア情勢の中、663 年、唐・新羅連合軍に白村江で大敗を喫した日本は北部九州を中心とした防衛体制を固めるため、664 年に水城を、翌 665 年に大野城と椽城（基肄城）を築造しました。これらの古代山城は、百済の亡命貴族の指揮のもと、朝鮮半島の技術が活かされていることから朝鮮式山城と呼ばれています。

◆土塁・石垣

大野城跡には尾根に沿って版築土塁が築かれており、総延長は約 8 km におよび、南北はそれぞれ二重になっています。

また、谷部は石垣を築いて塞ぐ構造になっています。水ノ手石垣・大石垣・屯水石垣・百間石垣・北石垣・小石垣などが確認されており、なかでも最大規模の百間石垣は長さが百間（約 180m）あり、壮観な眺めを見ることができます。



土塁線（うまのせ）



大石垣



百間石垣

一ビューポイント一

全長約 8 Km の尾根沿いを歩くと、各所で素晴らしい風景を眺めることができます。四王寺山を訪ねた際にぜひ見ていただきたいお薦めの「ビューポイント」を 7 ヲ所ご紹介します。

（※各アルファベットは裏面地図の地点と同一）

- A ご来光拝み … 脊振山・九千部山・基山・耳納連山の山々が広がっている。また、視界が開けたこの地は、毎年元旦にはご来光を拝む人々で賑わう。
- B 雲仙眺め … 右に九千部山、左に宝満山、その間に耳納連山・釈迦ヶ岳・古処山などが広がる。天気が良ければ九千部山の奥に雲仙普賢岳が見える。
- C 城内眺め … 頭巾山・三郡山・砥石山・若杉山などの三郡山地を背景に、主城原礎石群・北石垣など大野城跡が一望できるポイント。
- D 博多眺め … 北西方向に遠く志賀島・博多湾・福岡市街地を一望できる。
- E 玄界眺め … 博多湾を一望できるポイントで、右から立花山・海の中道・志賀島・玄界島・能古島が広がっている。
- F 宝満眺め … 立花山の三峰が美しく、若杉山・砥石山・頭巾山・宝満山の山々が連なっている。四王寺山で、宝満山が最もよく見える場所である。
- G 宰府眺め … 岩屋城跡から望むと、南に基山、西に脊振山、東に宝満山の山並みが広がっている。それらを背景に、九州国立博物館・観世音寺・大宰府政庁跡・水城跡など太宰府が一望できるポイントである。

■参考『四王寺山のビューポイント』発行・太宰府市 編集・四王寺山勉強会



A ご来光拝み



G 宰府眺め



屯水地区の水門



太宰府口城門跡



増長天礎石群

◆城門・水門

城内へ出入りするための城門は従来から南側の太宰府口城門・水城口城門・坂本口城門、北側の宇美口城門の 4 ヲ所が知られていました。その後、平成 16(2004) 年から行われた豪雨災害復旧の確認調査によって新たに北石垣城門・小石垣城門・原口城門・観世音寺口城門の 4 ヲ所が確認され、平成 24(2012) 年 10 月にはクロガネ岩城門が確認され、合計 9 ヲ所となりました。

また、屯水地区では暗渠式の水門が確認されています。

◆建物群

現在、大野城跡では 70 棟以上の礎石建物が確認されています。これらは城内の平坦地を選んで建てられており、増長天地区・尾花地区・猫坂地区・村上地区・広目天地区・ハッ波地区・御殿場地区・主城原地区の 8 地区に存在しています。

建物群の多くは総柱建物で、高床式倉庫と考えられています。尾花地区では炭化米が出土しており、これらの倉庫群は食料備蓄、あるいは武器の検収のため城内に設けられていたものと考えられています。

一豊かな自然一

四王寺山は花崗岩山地で、大城山 (410m) や大原山 (354m) など小規模な山が連なって形成されています。山中には福岡県立四王寺県民の森や太宰府市民の森、九州自然歩道も整備され、自然観察・歴史探訪・ハイキングなど心ゆくまでその魅力を味わうことができます。初夏の風に白く揺れるオカトラノオ、秋はオミナエシが黄色に輝き、ヤブランは木々の根元を紫に縁取ります。見上げるとその木々も美しい花、萌える若葉、目を見張る紅葉と変化に富み、私達を魅了してやみません。ノウサギやタヌキ、サワガニやトノサマガエルとすれ違い、ウグイスやメジロに混ざってウソやサンコウチョウといった珍鳥のさえずりも聞こえてくるかもしれません。

市街地から眺める四王寺山を静かに霧が包む様子は墨絵のようでもあり、万葉人の心情を今に感じます。（万葉集・山上憶良）「大野山 霧立ち渡る わが嘆く 息嘯の風に 霧たちわたる」五感で山の息吹を感じながら、季節の移ろいをぜひ体感してください。



ナンバンギセル



キランソウ

四王寺山史跡マップ

本図は太宰府文化遺産調査事業において、文化遺産調査ボランティア・四王寺山勉強会が調査したデータに基づき作成したものです。
(公財) 古都大宰府保存協会



- 凡例
- 史跡・名所・施設
 - 大野城城門跡
 - 大野城跡礎石群
 - 大野城跡土塁線
 - 四王寺山三十三石仏
 - 四王寺山ビューポイント
 - 主要県道
 - 主要林道 (アスファルト舗装道)
 - 一般道
 - 主要遊歩道・主要登山路
 - 主要交差点
 - 主要駐車場
 - コミュニティバス停留所
 - 主要トイシ

◆ 登山所要時間目安

大宰府政庁跡ノ大石垣 50分
坂本ノ幡神社経由・約2.4km
大石垣ノ、県民の森センター 15分 約0.8km
県民の森センター→百間石垣 20分 (林道で約1.3km)
県民の森センターノ焼米ヶ原 15分 約0.7km
焼米ヶ原ノ岩屋城跡 15分 約1km
岩屋城跡ノ大宰府政庁跡 40分
市民の森経由・約2.2km
焼米ヶ原ノ西鉄太宰府駅 45分
水枷山経由・約2.1km

◆ 車利用の場合

大宰府政庁跡ノ県民の森センター 20分 四王寺林道経由約7km

※ 表記の時間はあくまで目安のため、実際の天気・環境状況によって変化します。時間には十分に余裕を持ち、無理のないペースで登りましょう。

現在の太宰府町道は、林道で分断されている箇所や私有地などがあり、全てを歩くことはできません。

